

2024年度

カウンセラーコラム

2



モモの時間の使い方

澤田カウンセラー

新しい年を迎えて、皆さん、いかがお過ごしですか。今年が平和で穏やかな年になるといいですね。さて、今回は、「時間」について考えてみたいと思います。

現代に生きる私たちは、コンビニやインターネットや各種電化製品等々のお陰で、時間と労力をかけずに快適に暮らせる生活を当たり前と感じています。そして、そのために、便利なこと、効率のよいことは、全てよいことだと思ってしまうがちな気がします。でも、それは本当にそうでしょうか？

現代の時間の使い方について、考えさせられる物語があります。ミヒャエル・エンデが書いた児童文学『モモ』です。ドイツで出版されたのは1973年ですが、今でも十分、私たちの考え方を振り返るきっかけになりそうな作品です。

主人公のモモは、一度もクシを通したことがないような、まっ黒な巻き毛で、つぎはぎでサイズの合わない服を着た女の子です。モモは身なりはみすばらしいですが、特別な力を持っていました。それは、人の話を聴く力です。誰でも、モモに話すと、迷いが消えて、どうすればよいかわかるのでした。また、モモと対照的な存在として、「灰色の男たち」が登場します。灰色の男たちは、人々に、毎日の中の無駄な時間を節約して「時間貯蓄銀行」に預ければ、その分命が長くなって幸せになる、と言います。でも、それは嘘でした。だまされた人々は、時間を節約するようになって、どんどん余裕がなくなり、幸せからほど遠い毎日になってしまうのです。そして、それを見たモモは、灰色の男たちから皆の時間を取り戻すために頑張るのです…。

灰色の男たちが人々に広めるのは、“効率のよいことはよいこと”という考えです。そう言われると、そうだよなあと思いたくなりますが、それだけでは人は幸せになれないことが物語からわかります。反対に、モモは、人の話を聴く時、ゆっくり時間をかけています。ただ聴いているだけで、何もしていないようですが、それが話す人の心に力を呼び覚ますのです。灰色の男たちからは効率が悪く無駄に見える時間が、本当は大切なことをモモは知っているのでしょう。

現代の生活を昔の形に戻すことはできませんし、便利になって助かっていることはたくさんあります。でも、私たちが生きていくためには、効率がよくて便利でスピーディなだけでは充分ではなく、ひとりひとりの心が生み出す、その人らしい生命の音と言えるようなものに、ゆっくり耳を傾けてみる時間を持つこともとても大切なことなんだろうという気がします。

奮闘するモモや町の人たちがどうなったのか、時間とは何か…気になる方はぜひ本を読んでみて下さいね。

(参考文献:『モモ』ミヒャエル・エンデ作 大島かおり翻訳 2005年 岩波書店)

